

おおたかの森センターのロビーには、毎月テーマが変わる「ぬりえコーナー」を設置しています。4月のぬりえにて「流山での春の思い出」という題で作品を募集しました。お花見や新学期、新入学など、心に残った情景を皆さん上手に描いてくれました。ぬりえコーナーではこれからも色々なお題で自由に描いていただく企画を継続予定！皆さんの楽しい作品をお待ちしております。(齊藤)

今月の選書 by こども図書館

「スモンスモン」

このお話の主人公は、ゴンゴン星に住むとてもかわいらしい生き物「スモンスモン」です。人間にとても似ていますが、宇宙人かもしれません。お話の中にロンロンやヨンヨン、クロンクロンなどの不思議な言葉がいっぱい出でています。読み進めていくと意味がわかってきます。楽しい音と素朴なやさしさがあふれる、とても不思議で魅力的な絵本です。

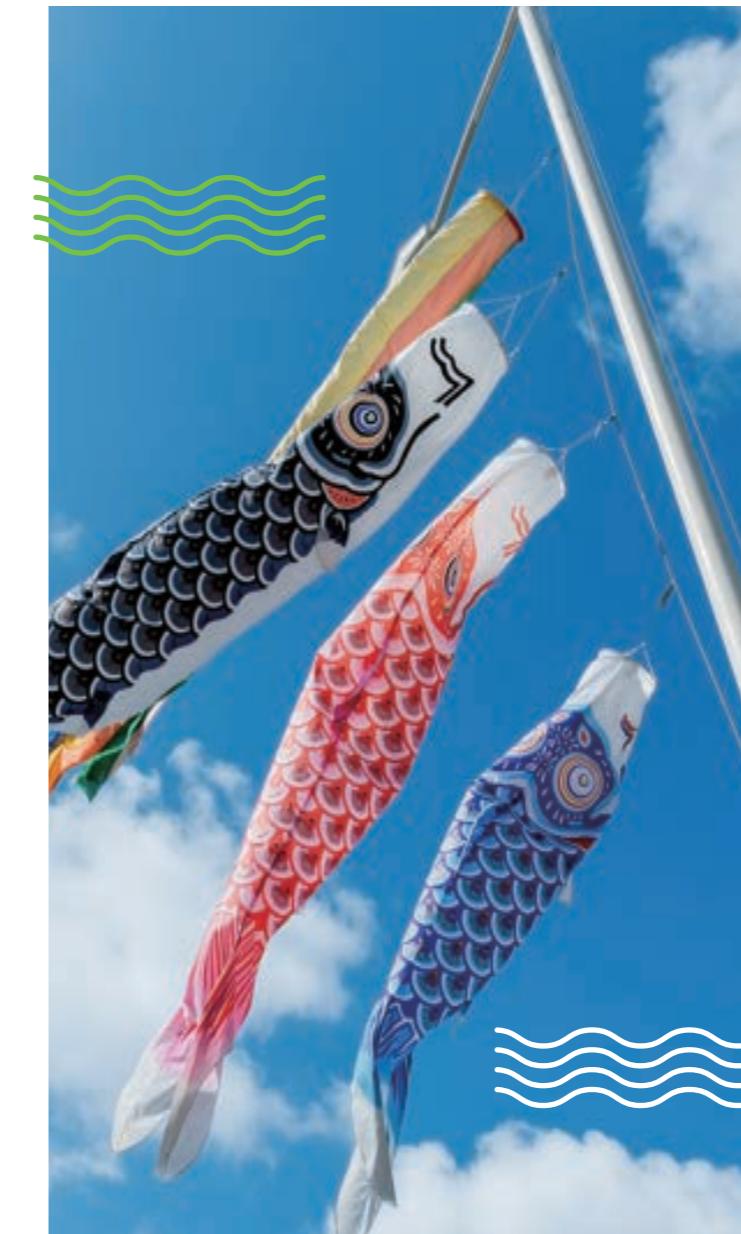
文・絵/ソーニヤ・ダゾウスキ(1978)はドイツ生まれ。イラストレーター・絵本作家。代表作に「はじまりのはな」がある。(野口)

岩波書店/ソーニヤ・ダゾウスキ 文・絵 新本史奇 訳

編集後記

GWが終わり、遊び疲れが出る頃でしょうか？今回の特集は「市野谷の森」でしたが、GWに自然の中へ出かけた方も多いのではないでしょうか。私は山と海に囲まれた兵庫・神戸で生まれ育ちました。小さい頃から祖父と裏山に行き餅づくりのためにヨモギ採りをしたり、時には須磨へ出かけて釣りを楽しみました。学生時代辛いことがあると、海に出かけてぼーっとすることもありました。幼い時に経験した自然の記憶はいつまでも新鮮で、遊園地にいった記憶や美味しいものを食べた記憶よりも、ありありと情景を思い出せる大切な宝物だと感じます。身近な自然は少なくなりつつありますが、新緑の季節、家族で自然を五感で味わつてみてください。大切な宝物になりますよ。(編集・齊藤)

特集 NPOさとやまさんにインタビュー。オオタカの住む、市野谷の森の今と昔に迫ります。(中面)



流山市おおたかの森センターと 2023年 春号

地域をつなぎ

寄り添うジャーナル誌。

Vol.3

[編集・発行] 流山市おおたかの森センター 〒270-0128 千葉県流山市おおたかの森西2-13-1 TEL.04-7159-7031 FAX.04-7159-7062 Nagareyama City Otakanomori Center 2-13-1 Otakanomori Nishi,Nagareyama City,Chiba 270-0128,Japan

[発行日] 2023年5月10日

[印刷] 流山市おおたかの森センター [責任者] 野口恵一

Instagram @otakanomori_center Twitter @OtakanomoriCity

おおたかの森センターからのお知らせ

新年度もスタートして少しずつ新しい環境に慣れてきた頃かと思います。おおたかの森センターでは様々なイベントが開催されます。身体を動かしたい子育て中のママ・大人の方にぴったりの「リフレッシュサロン」。親子で参加できるイベントは「わくわく親子体操」「おおたかの森ひろば」「親子星空探検隊」。(対象年齢が異なります)また、5月からの新イベントも充実!おおたかの森お囃子会の皆様に太鼓や篠笛を教えてもらい、キッズ★フェスタにて演奏を披露する「おおたかの森センターお囃子会」。4歳以上のお子様対象の「アートジャーニー」。また、大人向けの癒しのお花ワークショップ「おおたかの森Greendays」もリニューアル開催することになりました。イベント詳細は広報ながれやま・センターHP等をご確認ください。皆さまのご参加をお待ちしております!(谷澤)



季節
色々

NPOさとやまと市野谷の森

～自然を守る活動～



岡田 啓治 さん

当センターのすぐ近くには「流山おおたかの森駅」の由来となった「オオタカ」が生息する市野谷の森があります。この森をはじめとする里地里山の保全活動を行っているNPOさとやま(敬称略)・岡田代表にお話を伺いました。当センターもNPOさとやまには、様々なイベントでご協力をいただいております。



市野谷の森とは

市野谷の森はコナラ、クヌギ、シラカシ、イヌシデやスギなど、広葉樹と針葉樹が混交する雑木林です。オオタカを中心としてウグイスやシジュウカラ、エナガ、カケスなどの野鳥を季節に応じて見ることができますし、多くの昆虫や植物などが生息しています。

市野谷の森の昔

昔は50ヘクタールほどの大きな森でした。つくばエクスプレスの開通に伴う開発によりほぼ全部の森が消えてしまうところでしたが、同じく、この森でオオタカの営巣が確認され、地元の自然環境団体が森の保全に立ち上がりました。その結果、半分ではありますが24ヘクタールが自然の質を損なうことなく、より質の高い緑地空間という位置づけの都市公園などとして保全・利用を図られることが決まり今に至っています。

市野谷の森の現在と「NPOさとやま」の活動

この森が公園として整備されると、中心部は県が運営する県立公園として、東西それぞれは流山市が管理する東近隣公園、西近隣公園という3つの公園で構成されます。いずれも樹木などの自然環境を極力維持しながら、その範囲で市民に利用してもらう公園というコンセプトです。

NPOさとやまは現在、この森の維持管理を行っています。また、毎月原則第一日曜日にその時期に応じて、野鳥、昆虫、植物などを観察する自然観察会を行ったり、生きものをテーマにした講座を開いたり、生きものの調査活動なども行っています。是非一度、観察会にご参加ください。お待ちしています。



森を残すための行政交渉は難航を極めたそうです。また、今では考えられませんが、オオタカの密猟が行われたり産業廃棄物の不法投棄の問題が起きたと、森を守ることには並々ならぬご苦労があったとお聞きしました。バードウォッチングや野菜作りがご趣味の岡田代表からは、自然保護に対する熱い情熱を感じました。(島中)
NPOさとやまにご関心のある方は以下のホームページをご覧下さい。

NPOさとやま HP : <https://www.nposatoyama.com/index.html> TEL:04-7152-6856

Oh!散歩
ながれやま
第3回



円東寺



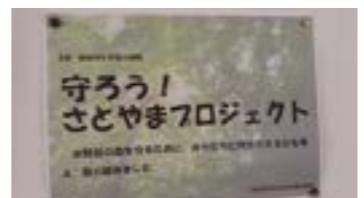
住職 増田俊康 さん

円東寺に近づくと真新しい観音堂が目に入る。さらに近づくと流山立木観音の穏やかなお顔を覗くことができる。抜けるような青空の昭和の日に円東寺を訪れた。通された広間で増田住職が観音様と同じように穏やかに迎えてくださった。住職は大宮の出身。本町の光明院の住職が叔父だったことがきっかけで仏の道に入られた。光明院で11年つとめ、平成16年に円東寺の住職になられた。流山立木観音は道路拡幅のため伐採を余儀なくされた樹齢400年の銀杏の木を東日本大震災の供養のために建立されたと伺った。流山でぜひ見もらしたい観音様である。話は変わるが、住職はいろんな顔をお持ちである。その代表が大道芸人の顔。小学生のころから手品好きだった少年は、成人してもその思いは変わらず、柏マジッククラブに入会し、ジャグリングやバルーンアートを独学で習得。地域のイベントで引っ張りだこである。そんな住職は、本業はあくまでも仏道、大道芸はコミュニケーションをとるための一つの方法とおっしゃる。住職のお話を伺っているとマジックでもかけられたようにあっという間に時間が過ぎていた。とても心地よい時間であった。(野口)



見マ来マ
皆マ得!

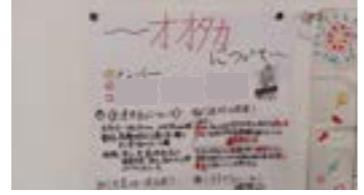
キッズ★フェスタで
太鼓をたたこう!



グループワークで作成した資料が多数展示。



各グループ、分かり易く工夫が凝らされている。



オオタカの生態についても詳しく書かれている。



クイズで理解を深められる楽しい展示。

古くから流山に伝わる伝統芸能「祭りばやし」。当館では2019年からおおたかの森お囃子会の皆様の指導のもと、参加者の皆さんのが地域のお祭りや当館で開催されるお祭りにて演奏を披露しています。おおたかの森お囃子会は、お囃子・神楽・獅子舞を楽しむ事及びそれらの技量向上・普及を目的として、平成23年8月8日に発足しました。年に4回流山市の金刀比羅神社の縁日に定期演奏会を開催。演奏者が一体となり、笛の音色に合わせて縦太鼓や大太鼓を叩き、お祭りを盛り上げています。当館で練習している際、ロビーを通りかかる方が「お祭りの音色だね」「素敵な音色だね」と立ち止まる様子も見られます。そんな伝統芸能を体験できるイベントが5月25日(木)・6月8日(木)・6月22日(木)16:00~17:30に当館で、キッズ★フェスタ2023の演奏披露に向けて始動します。1日のみの練習参加でも構いませんので、ぜひ一緒にお祭りを盛り上げてください!ご興味のある方はおおたかの森センター(☎04-7159-7031)にお電話、または窓口までお声がけください!(谷澤)



次回開催日などのイベント詳細はセンターHP・広報ながれやまをご覧ください。

館長一筆箋



ゴールデンウィーク中、5月5日のこどもの日はこどもたちにとって特別な日ではないでしょうか。日本風に言えば「端午の節句」。武者人形を飾り、鯉のぼりをたてるのが日本の景色でした。そして、柏餅を食べるのも風習として伝わっています。餡入りの餅を柏の葉でつつんだのですが、餡子は「粒あん」「こしあん」の2種類が店先に並びます。みなさんは、「粒あん派」「こしあん派」どちらですか。ネットでの、あんぱんに関するアンケートでは、「粒あん派」が約60%を占めたそうです。私にはとても意外でした。私は根っからの「粒あん派」ですが、私以外の家族四人が「こしあん派」なのです。職場でも「こしあん派」が多く肩身の狭い思いをしています。味は同じだと思いますのですが。どちら派か、家族で語ってみては?(野口)

今月の書

今月は「水芭蕉」と「白鷺」です。一昔前には流山で、白鷺も見ることができたかもしれませんね。(野口)

